

平成 24 年度
登別市デンマーク友好都市
中学生派遣交流事業
研修報告書



目 次

- 登別市デンマーク友好都市中学生派遣交流事業の概要・・・・・・・・・・1
 - 事業概要
 - 研修日程表
 - 派遣生徒・引率者・ホストファミリー名簿
 - 派遣日程表

- 紀行文・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
 - 8月14日(火)：出発
 - 登別明日中等教育学校 1年 赤 松 和
 - 8月15日(水)：オーデンセ市内見学
 - 緑陽中学校 2年 鎌 田 諒
 - 8月16日(木)：リングフリー校での交流
 - 鷺別中学校 1年 金 澤 亜有菜
 - 8月16日(木)：老人ホーム訪問・図書館見学
 - 西陵中学校 2年 神 沙 希
 - 8月17日(金)：レゴランド見学・食事会
 - 緑陽中学校 2年 木 村 憲 昭
 - 8月18日(土)：ホストファミリーとの交流
 - 幌別中学校 2年 萩 原 愛 美
 - 登別中学校 2年 小和田 奈々
 - 8月19日(日)：イーエスコウ城見学
 - 鷺別中学校 3年 高 城 萌 香
 - 8月20日(月)～21日(火)：帰国
 - 幌別中学校 2年 鹿 野 睦 美

- 研修テーマ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・19
 - 鎌 田 諒：デンマークの文化・自然遺産
 - 木 村 憲 昭：デンマークロラン島の風力発電
 - 金 澤 亜有菜：デンマークの気候
 - 高 城 萌 香：デンマークの政治
 - 鹿 野 睦 美：デンマークの観光名所
 - 萩 原 愛 美：デンマークの食文化
 - 神 沙 希：デンマークの医療
 - 小和田 奈々：デンマークの社会
 - 赤 松 和：デンマークの教育

○感想文・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・41

- 鎌田 諒：デンマークで過ごした日々
- 木村 憲昭：デンマークでの思い出
- 金澤 亜有菜：デンマークでの思い出
- 高城 萌香：デンマークでの日々
- 鹿野 睦美：デンマークでの7日間
- 萩原 愛美：デンマークで過ごした日々
- 神 沙希：ホストファミリーとの交流
- 小和田 奈々：デンマークへ行って
- 赤松 和：ホストファミリーと過ごして

○引率者報告書・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・53

- 団 長：南 三 明：登別市総務部政策推進室財政グループ 管財主幹
- 引率者：室 山 知 美：緑陽中学校教諭

事業概要

【事業概要】

1 目的

登別市の中学生を友好都市のデンマーク王国ファボー・ミッドフュン市に派遣し、青少年との交流を深め、日本とは異なる生活や文化を体験させることにより、生徒の人間性を豊かにし彼らの将来に良好な影響を与えると同時に、ファボー・ミッドフュン市との更なる交流推進の一翼を担うことを目的とする。

2 訪問国及び都市

デンマーク王国：コペンハーゲン、ファボー・ミッドフュン、オーデンセ

3 派遣期間

平成 24 年 8 月 14 日（火）～21 日（火）：7 泊 8 日

4 交流内容

表敬訪問：ファボー・ミッドフュン市役所

学校訪問：リングフリー校

施設見学：アンデルセン博物館、図書館、老人福祉施設、
レゴランド、イーエスコウ城

5 研修内容

(1) 結 団 式：平成 24 年 7 月 6 日（金）

(2) 事前研修：平成 24 年 7 月 18 日（水）～8 月 8 日（水） 計 9 回
デンマークの概要の学習、研修テーマの発表、英会話、
登別の紹介・歌・踊りの練習、デンマーク料理実習など

〔講師等〕 引率教諭：緑陽中学校 室 山 知 美

ALT：アンドリュー・スピーガ、ブレット・リンチ
登別デンマーク協会

派遣 OB：山 田 涼 佳 [H22 年度：鷺別中学校]

佐 藤 啓 陸 [H22 年度：西陵中学校]

横 山 凌 太 [H22 年度：登別中学校]

松 田 綾希子 [H22 年度：登別明日中等教育学校]

藤 島 葵 [H23 年度：緑陽中学校]

竹 原 香 澄 [H23 年度：鷺別中学校]

林 可 歩 [H23 年度：幌別中学校]

山 下 梨里花 [H23 年度：登別明日中等教育学校]

石 垣 則 昭 [H23 年度：緑陽中学校長]

松 本 政 樹 [H23 年度：幌別中学校教諭]

(3) 事後研修：平成 24 年 8 月 31 日（金）～10 月 15 日（月） 計 5 回
研修成果まとめ、紀行文・感想文提出、帰国報告会準備

(4) 帰国報告会：平成 24 年 10 月 17 日（水）

【研修日程表】

月 日	内 容		場 所	時間
7月 6日(金)	結団式・第1回保護者説明会		小会議室	18:00~19:30
7月 18日(水)	事前研修1	<ul style="list-style-type: none"> ・デンマークの概要 ・研修テーマの発表 ・役割分担(紀行文) ・アトラクションの内容決定 	視聴覚室	16:30~18:00
7月 20日(金)	事前研修2	<ul style="list-style-type: none"> ・役割分担(登別の紹介スライド) ・ " (あいさつ) ・アトラクション練習 	視聴覚室	16:30~18:00
7月 22日(日)	事前研修3	<ul style="list-style-type: none"> ・派遣OBとの懇談 	視聴覚室	10:00~11:30
7月 23日(月)	事前研修4	<ul style="list-style-type: none"> ・英会話、手紙の書き方 	視聴覚室	16:30~18:00
7月 25日(水)	事前研修5	<ul style="list-style-type: none"> ・英会話、登別の紹介スライド・アトラクション練習 	視聴覚室	16:30~18:00
7月 27日(金)	事前研修6	<ul style="list-style-type: none"> ・英会話、登別の紹介スライド・アトラクション練習 	視聴覚室	16:30~18:00
7月 30日(月)	事前研修7	<ul style="list-style-type: none"> ・英会話、登別の紹介スライド・アトラクション練習 	視聴覚室	9:30~12:00
8月 6日(月)	事前研修8	<ul style="list-style-type: none"> ・最終打ち合わせ、総練習 	視聴覚室	9:30~12:00
8月 8日(水)	事前研修9	<ul style="list-style-type: none"> ・デンマーク料理教室 (登別デンマーク協会・ALT協力) 	調理室	9:30~12:30
8月 10日(金)	出発挨拶		市長応接室	10:00~10:30
	第2回保護者説明会		第2委員会室	18:00~19:00
8月 14日(火)	デンマークへ出発			
8月 21日(火)	デンマークから帰国			
8月 24日(金)	帰国挨拶		市長応接室	16:30~17:00
8月 31日(金)	事後研修1	<ul style="list-style-type: none"> ・報告書作成 	視聴覚室	16:30~18:00
9月 6日(木)	事後研修2	<ul style="list-style-type: none"> ・報告書作成 	視聴覚室	16:30~18:00
9月 18日(火)	事後研修3	<ul style="list-style-type: none"> ・報告書作成 	児童室	16:30~18:00
10月 11日(木)	事後研修4	<ul style="list-style-type: none"> ・帰国報告会準備 	婦人サークル活動室	16:30~18:00
10月 15日(月)	事後研修5	<ul style="list-style-type: none"> ・帰国報告会準備 	婦人サークル活動室	16:30~18:00
10月 17日(水)	帰国報告会		大会議室	18:00~19:30

【派遣生徒・引率者名簿】

緑陽中学校	2年生	鎌田 諒
緑陽中学校	2年生	木村 憲昭
鷺別中学校	1年生	金澤 亜有菜
鷺別中学校	3年生	高城 萌香
幌別中学校	2年生	鹿野 睦美
幌別中学校	2年生	萩原 愛美
西陵中学校	2年生	神 沙希
登別中学校	2年生	小和田 奈々
登別明日中等教育学校	1年生	赤松 和

団 長	登別市総務部政策推進室 財政グループ 管財主幹	南 三 明
引率教諭	緑陽中学校 英語教諭	室 山 知 美

【ホストファミリー名簿】

No.	派遣者名	ホスト名・住所・メールアドレス	性別 年齢	家族構成
1	鎌田 諒	マチルデ・M・R・クヌーセン Holmehøjvej 26, 5750 Ringe, Denmark e-mail:evita.rosdahl@gmail.com	女 13歳	母：エビータ、妹：セリーネ/9歳 *父・デニス
2	木村 憲昭	ラーセ・W・ペダセン Stegshavevej 12, 5750 Ringe, Denmark e-mail:lasse.warburg@gmail.com	男 12歳	母：イーベン、父：キム
3	金澤 亜有菜	マチルデ・F・ビード Nordskovvej 2, 5750 Ringe, Denmark e-mail:mathildehviid@gmail.com	女 12歳	母：ギッテ、父：エリック、 弟：エミル/10歳、ラスムス/6歳
		フィーエ・B・フランク	女 12歳	母：シャロッテ、父：イエスパー、 姉：ルーナ/16歳
4	高城 萌香	カロリーネ・B・スタークリン Holmehøjvej 24, 5750 Ringe, Denmark e-mail:caroline@5750.dk	女 13歳	母：カトリーナ、父：オーレ、 妹：ミレマリエ/9歳、 兄：ヨナス/15歳 ※祖母も同居
5	鹿野 睦美	ミエ・M・ニールセン Hedebovej 28, 5750 Ringe, Denmark e-mail:melgaardnielsen@gmail.com	女 13歳	母：マリアンヌ、父：ミケール、 弟：マッツ/8歳、マイケル/5歳
6	萩原 愛美	アナ・B・ハンセン Søvej 6, 5750 Ringe, Denmark e-mail:anna.bjerring@hotmail.com	女 13歳	母：ドリス、妹：エレン/10歳、 弟：スベン/9歳 *父・イエスパー
7	神 沙希	カトリーネ・クリステンセン kildevangen 25, 5750 Ringe, Denmark e-mail:katrinec@5750.dk	女 13歳	母：ベティーナ、父：ウルリック 弟：10歳
8	小和田 奈々	イーダ・T・L・ハー Degnemarken 11, 5750 Ringe, Denmark e-mail:idahaar@gmail.com	女 13歳	母：リーネ、父：サンディー、 妹：マチルデ/9歳
9	赤松 和	ソフィ・V・フレデリクセン Hallingager 34, 5750 Ringe, Denmark e-mail:sofievestergaard99@gmail.com	女 13歳	母：アネ、父：ヨニー、 妹：マリエ/11歳、アマリエ/7歳
10	南 三明 室山 知美	アネ・ヘルストラップ (リング・フリー校教師) Sdr. Højrupvejen 46, Pederstrup, 5750 Ringe, Denmark e-mail:annehelstrup@hotmail.com	女	夫：トーベン 娘：ミーア/20歳、ユリエ/18歳 息子：シモン/16歳、 イエッペ/14歳)、マグネ(13歳) アスペン(2歳)

【派遣日程表】

月日	行程	内容	食事	宿泊
8/14 (火)	市役所 ⇒ 千歳空港 5:30 6:40	【1日目】 5:15 市役所裏玄関に集合 5:30 市バスで新千歳空港へ 6:40 新千歳空港到着後、搭乗手続き	機内	
	千歳空港 ⇒ 成田空港 7:50 9:25	7:50 NH (全日空) 2152 便で成田国際空港へ 9:25 成田国際空港着後、出国手続き		
	成田空港 ⇒ ミュンヘン空港 12:15 17:15 (現地時間)	12:15 NH (全日空) 207 便でミュンヘン空港へ (約 12 時間) 17:15 ミュンヘン空港到着後、入国手続き、ヨーロッパ国際線搭乗手続き		
	ミュンヘン空港⇒コペンハーゲン空港 19:15 20:45	19:15 LH (ルフトハンザ航空) 2446 便でコペンハーゲン空港へ (荷物受取り、税関審査) 空港から駅へ徒歩移動⇒アシストあり		
	コペンハーゲン⇒コペンハーゲン 空港駅 21:39 中央駅 21:52	21:39 列車 (IC179) コペンハーゲン中央駅へ⇒アシストあり 21:52 コペンハーゲン中央駅到着		
	コペンハーゲン中央駅 ⇒ ホテル 22:00 22:10	22:00 ホテルへ徒歩移動 ⇒ アシストあり 22:10 ホテルチェックイン (ホテルリッチモンド)		
8/15 (水)	ホテル ⇒ コペンハーゲン中央駅 9:00 9:15	【2日目】 9:00 ホテルチェックアウト コペンハーゲン中央駅へ徒歩移動	ホテル	ホスト
	コペンハーゲン中央駅⇒オーデンセ駅 10:00 11:30	10:00 コペンハーゲン中央駅で乗車 (IC133)	派遣団	
	オーデンセ市内	11:30~15:00 オーデンセ駅着、道子・ペダスンさん、メッテ・ハンセンさんと合流後、アンデルセン博物館などを見学		
	オーデンセ駅 ⇒ リング駅 15:23 15:39	道子・ペダスンさんとオーデンセ駅で別れる 15:23 オーデンセ駅で乗車(列車 RE4650) 15:39 リング駅着 ホストファミリーと対面し、各家庭へ	ホスト	
8/16 (木)		【3日目】 8:05~14:00 リングフリー校 (7年生) で交流 朝会・校内見学・体育の授業 14:00~ 放課後、図書館見学、老人ホームを訪問し、歌と踊り披露 引率者は、ファボー・ミッドフュン市役所訪問 (市長: ハンス・ヨーンスン、フィン・ヨハンセン)		
8/17 (金)	リング市内	【4日目】 8:05 リングフリー校 (7年生) で交流 (朝会で登別市紹介と歌、踊りなど披露) 9:15 リングフリー校 7年生と担任のシャロッテさんと共にレゴランドのあるビルンへバスにて移動⇒レゴランド見学 17:00 リング着後、食事会にホストファミリーと一緒に参加	ホスト	ホスト
8/18 (土)		【5日目】 ホストファミリーと終日過ごす		
8/19 (日)		【6日目】 イーエスコウ城見学 ※ホストファミリーの車で移動		
8/20 (月)	ホスト宅⇒リング駅	【7日目】 それぞれホストファミリー宅からリング駅に向かう 8:30 リング駅到着	ホスト	
	リング駅⇒オーデンセ駅 8:43 9:07	8:43 ホストファミリーやお世話になった方々に別れを告げ、列車 (RE2623) でオーデンセ駅へ 9:07 オーデンセ駅着		
	オーデンセ駅⇒コペンハーゲン空港駅 9:45 11:37	9:45 列車 (IC116) に乗り換え、コペンハーゲン空港駅へ 11:37 コペンハーゲン空港駅到着後、空港まで徒歩移動。出国手続き、ヨーロッパ国際線搭乗手続きを済ませ、昼食。	派遣団	
	コペンハーゲン空港⇒ミュンヘン空港 14:40 16:15	14:40 SK (スカンジナビア航空) 2657 便でミュンヘン空港へ 16:15 ミュンヘン空港着後、国際線乗り継ぎ		
	ミュンヘン空港⇒成田空港へ 21:00	21:00 NH (全日空) 208 便で成田国際空港へ (約 11 時間 25 分) [日付変更線]	機内	
8/21 (火)	成田空港 15:25 (現地時間)	【8日目】 15:25 成田国際空港到着後、入国手続き、税関審査	派遣団	
	成田空港⇒千歳空港 18:20 20:00	18:20 NH (全日空) 2155 便で千歳空港へ 到着後、市バスに乗車		
	千歳空港 ⇒ 市役所 20:30 21:40	20:30 市バスで市役所へ 21:40 市役所到着		

紀 行 文

8月14日（火）：出発

登別明日中等教育学校1年 赤松 和

この日、私は午前3時30分に目を覚まし、支度を終え車に乗ると、いよいよだと胸がドキドキしました。市役所に着いた時もまだ薄暗く、空は曇っていました。家族に挨拶をしてバスに乗りこみ、千歳空港へ向かいました。バスの中では、みんなこれから始まる研修を思い浮かべて、デンマークの話で盛り上がりました。千歳空港に到着し、搭乗手続きを済ませ飛行機に乗り、北海道を飛び立ちました。成田空港に着くと少し時間があり、私達はお店を見て回りました。途中、おいしそうなパン屋さんを見つけ、昼食用に買いました。



出国手続きを終え、ドイツのミュンヘン行きの飛行機に乗り込みました。ミュンヘンまでは、約12時間かかります。機内では、英語字幕の日本映画「テルマエロマエ」を見たり、ゲームをして過ごしました。機内食は少ししか食べられませんでした。ロシアの上空あたりで、機内の照明が暗くなり、他のお客さんも寝たので、私も少しウトウトしてきました。

ミュンヘン空港に着いて入国審査を受けていた時、「ニーハオ」と声をかけられて驚きましたが、私達が日本人だということに気づいたらしく、すぐに「コンニチワ」と言い換えてくれました。それから、コペンハーゲン行きの飛行機に乗りました。とても小さな飛行機で、まるでバスに乗っているような感覚でした。コペンハーゲン空港から電車に乗り、コペンハーゲン中央駅で乗り換え、ホテル近くの駅まで行きました。駅からホテルまでは徒歩でした。空はもう真っ暗で、夜の街並みもきれいでした。

ホテルに着くと、みんなはぐったりと疲れていて、それぞれの部屋に分かれて寝る支度をしました。もう夜も遅かったので、「シャワーは明日にしよう。」と言ってすぐに寝ました。7時間という大きな時差もあり、時間の感覚がよくつかめず、本当にあっという間の1日でした。

8月15日（水）：オーデンセ市内見学

緑陽中学校2年 鎌田 諒

デンマークに来て2日目。ホテルのチェックアウトが9時なので、7時30分にみんなで朝食を食べました。デンマークで食べた初めての食事でした。バイキング形式で私は「デニッシュ」と「チーズ」、「サラダ」などを食べました。どんな味かとても不安でしたが、「デニッシュ」がとても甘くて美味しかったです。

ホテルをチェックアウトして徒歩で駅まで移動しました。電車の中には自転車を置けるスペースがあり便利だと思いました。これは、日本も真似したらいいと感じました。オーデンセ行きの電車の中では、みんなでトランプをしました。11時頃にオーデンセ駅に到着して、道子ペダスンさんとメッテ・ハンセンさんに街を案内してもらいました。オーデンセの街では、ちょうど花祭りが開催されていました。他には、メッテさんが卒業した高校やアンデルセン博物館を見学しました。高校の中はとてもきれいで、天井や壁には絵が描かれており、机の配置は日本とは違い「コの字型」になっていました。アンデルセン博物館には子どもたちを喜ばせようと作った切り絵などがありました。とても細かく作られていて見入ってしまいました。オーデンセは緑がたくさんあってとても気持ち良かったです。



その後、電車に乗ってホームステイ先のリングエまで行きました。電車の中では、みんな自分のホストファミリーに会うことに楽しみな気持ちと不安な気持ちの両方あって10分くらいの間ドキドキしていました。駅に着いた時、ホストファミリーやリングエフリー校の生徒が日本とデンマークの国旗を振って迎えてくれました。

私のホストファミリーもとてもあたたかく迎えてくれて、家まですぐに連れて行ってもらいました。家に着くとまず家の中を案内してもらいました。庭

にはプールとトランポリンがあり、とても驚きました。すると、「やってみる？」
と言ってくれて私も試してみました。一度飛んだだけで高く飛べてすごく楽し
かったです。その後、ホストファミリーの子とその友達と隣の家ホームステ
イしている高城さんと一緒にリングゲの街を散歩しました。みんなたくさん質問
してくれて、私たちはとても楽しく過ごすことができました。

初めは少し不安な面もありましたが、楽しく過ごすことができ、寝る前は明
日がどんなことがあるか楽しみになっていました。

8月16日（木）：リングフリー校での交流

鷲別中学校1年 金澤 亜有菜

私のホストファミリーは、とても優しく気遣ってくれました。でも私は緊張していたので昨夜は全く眠れませんでした。朝食は、コーンフレークに牛乳をかけて食べました。デンマークの朝食は、シンプルと聞いていましたが、他にもたくさん食べるものがあり、とても美味しかったです。

リングフリー校には、8時に着きました。校舎はいくつかに別れており、教室から一度外に出てホールに向かいました。私達は朝会に参加しました。全校生徒が歌を3曲歌い、2人の先生がピアノとフルートを弾きました。1曲は「サクラ」でしたが、私は意外にも歌詞を覚えていませんでした。

朝会終了後、学校を案内してもらいました。この学校では1学年から9学年の生徒が学んでいます。体育館と家庭科室は距離がかなり離れていました。リングフリー校には、寄宿学校が併設されているために寮があることが分かり驚きました。体育館の上の階に教室があることにも驚きました。テニスコートは3面あり、中庭には遊具が多く公園のようでした。

次は、警察官と一緒に交通指導をしました。交通指導の前に警察官からデンマーク語で説明がありましたが、何を話しているのか分かりませんでした。そして、授業と授業の間に長い休み時間があり、各自で持ってきたお弁当を食べました。私は、サンドウィッチ、バナナ、それに日本の“どん”を固めて焼いたようなものを食べました。これは、塩味が利いていて美味しかったです。サンドウィッチのパンは、日本の食パンとは違い初めて食べた味でした。



生徒たちは、バナナ、キュウリ、リンゴなどをお弁当に持って来ていました。クラスメートは、とても面白くて仲良しになることができました。特に、ソフィとは、とても良い友達になりました。

放課後、遊具で遊んだり、ルールは少し違いますが野球のような遊びもしました。この日はとても楽しく過ごすことができ、1日でたくさんの思い出ができました。



8月16日（木）：老人ホーム訪問・図書館見学

西陵中学校2年 神 沙希

私たちが老人ホームと図書館を訪問したのは、リングフリー校での交流の後です。2つの施設には、リングフリー校の7年生と一緒に行きました。

最初は老人ホームに行きました。私たちは、“メスターヤーコブ”と“カエルの歌”を披露しました。“メスターヤーコブ”を2回くり返し歌い、続けて日本語で、“ぐーちょきぱーの歌”を手の振りをつけて歌いました。その後“カエルの歌”を3人1組にわかれて、輪唱しました。歌の発表が終わってから、私達は、もうすぐ105歳になるというおばあさんの部屋を訪問させていただきました。部屋の壁には、昔おばあさんが住んでいた家の絵が飾ってありました。ここでのおばあさんの生活は、お友達の部屋によく遊びに行ったり、家族が毎日会いに来てくれるので、とても充実している様子でした。



次に図書館を訪れました。リングフリー校の7年生が館内を案内してくれました。図書館は、ロビーがとても広く、ミニカーなども飾ってありました。また、国ごとに別れている本棚や、ビデオとゲームのコーナー、そして「NARUTO」や「ONE PIECE」などの日本のマンガが置いてあるコーナーもありました。また、少し上の階へ行くと、図書館にかかっている時計の内部を見ることができます。小さい子どもが遊べる場所があり、とてもカラフルで壁にはクジラの絵が描かれていました。登別の図書館にも子どもが遊べる場所は



ありますが、この図書館と比べると、あまりカラフルとは言えないので、色使いを工夫するなどして、楽しい場所にしたら良いと思いました。また、造りの1つ1つがとてもおしゃれで、まるで美術館のようでした。図書館のような施設までがおしゃれなことも、日本と違う点ではないかと思えます。

私は、老人ホームと図書館を訪問して、どちらも日本と違う点が多いことに驚きました。2つの施設では、一人一人が楽しむことができ、満足できる工夫がなされていることに気がつき、とても良い所だと思ったので、今度は日本の老人ホームや図書館の良い所を探して行きたいです。

8月17日（金）：レゴランド見学・食事会

緑陽中学校2年 木村 憲昭

リングフリー校の朝会にみんなで参加して、登別市の紹介や歌と踊りを披露しました。その後、クラス全員とバスでレゴランドへ向いました。レゴランドのあるユトランド半島のビルンという町までは、高速道路を走り、とても長い橋を渡り約2時間もかかりました。バスの中では、ホストのラーセやクラスの子と話をしたり、車窓から景色を見ていました。緑がたくさんあり、海が青くてとてもきれいでした。やがて、とても楽しみにしていたレゴランドに着きました。

レゴランドでは、クラスの男子全員で見学しました。そこには、小さな頃から遊んでいたレゴブロックの世界が広がっていました。全てがブロックで出来ていました。とても大きなブロックやしゃべるレゴもあり驚きました。中には、遊園地やグッズの店もありました。



お昼にチキン&ポテトを食べました。値段は、100クローネ（日本円で1470円）と、けっこう高めですが、量もあり味も良くとてもおいしかったので、大満足でした。その後、ジェットコースターに何回も乗り、クラスメートと一緒に土産を見たり、たくさん遊び、あっという間に時間が過ぎてしまいました。

夕方リングに戻ってから、食事会に参加しました。夕食は、それぞれのホストファミリーがごちそうを学校の中庭に持ってきてくれて、みんなで食べました。ピザやチキン、ポテト、サラダ、フリカデラ（小さなハンバーグ）と盛りだくさんでした。お腹いっぱい食べた後、クラスの男子とサッカーを楽しみました。ラーセにパスをもらいシュートを打ちましたが、入らなくてショックでした。



その後、派遣団が中心となり鬼踊りを踊りました。踊りの輪ができて大盛り上がりでした。とても楽しい一日でした。

8月18日（土）：ホストファミリーとの交流

幌別中学校2年 萩原 愛美

8月18日土曜日朝7時30分ごろ起床。昨晚、ホストファミリーのお父さんに「明日はゆっくり寝ていいよ。」とは言われたものの、少々寝すぎたと思いいベッドから飛び起きました。リビングへ行くと弟たちもちょうど起きたばかりらしく、軽く胸をなで下ろしました。ホストのアナはソファで何か作っているところでした。「それは何？」と尋ねると、髪から下げるミサンガだと教えてくれました。それは昨日、私がレゴランドで時間が無くて買えなかったものの手作りバージョンでした。私も作るのを手伝いましたが、アナの作ったものと並べてみるとデコボコしていて不恰好でした。それでもアナとまた1つ思い出をつくれて満足です。

朝食をすませてからはゴリラパークへ行きました。ゴリラパークとは地上5~20m以上の高さで木から木へと移るアスレチックのことです。昼食はホットドックとアイスを食べました。周りが木に囲まれているのでとても涼しくて気持ちがよく、ちょっとしたピクニック気分でした。



午後からもゴリラパークで遊びました。アナはとても上手で、私がコースをクリアするのに手伝ってくれました。100m以上ある長いターザンロープの様なものをやりました。森をすごい速さで横切ると風が私に向かってぶつかってきて耳元でうなり声を上げるのです。ゴリラというよりモモンガかムササビになった気分でした。4時ごろ、ホストのお父さんに「そろそろ帰ろう。」と声をかけられるまでずっと遊んでいました。帰りの車に乗って初めて自分がぐったり疲れていることに気が付きました。「明日は筋肉痛かな。」そんなことを思っている反面、明日1日過ごしたらもうアナと一緒にいられないということに気付き少し寂しく思いました。



夕食は、蒸したじゃがいもを小さく丸めて焼いたものとステーキを食べました。今までで1番おいしい夕食でした。夕食をすませてからイーダの家に行きました。そこではリングフリー校の7年生のみんなや登別の中学生が集まってパーティーをしていました。それから水遊びをしたり、マシュマロを焼いて食べて過ごしました。私は途中で帰りましたが、12時を過ぎてもパーティーは

終わらなかったそうです。

家に帰るとベッドへ飛び込みました。すごく疲れていてまぶたが重たかったです。それでもホストのお父さんと弟、妹にはおやすみのあいさつをしました。アナとはベッドに入ってから「おやすみアナ。」「また明日。おやすみ。」と短いあいさつをしてから寝ました。

8月18日（土）：ホストファミリーとの交流

登別中学校2年 小和田 奈々

ホストのお母さんに起こしてもらい5日目が始まりました。朝食を済ましてから、他のホストファミリーと一緒に列車でオーデンセへ買い物に行きました。ホストのお勧めの店へ連れて行ってもらい、お土産を買いました。デンマークの通貨であるクローネを使って支払うのが始めてだったので大変でしたが、ホストのイーダに手伝ってもらい、最後には一人で支払うことができるようになりました。たくさんのお店に行きましたが、一番印象的なのは「H&M」という洋服店



です。私はそこで初めてサングラスを買いました。日本とは違い、周りを気にせずサングラスをかけることができたので、とても楽しかったです。

昼食はハンバーガー屋に行き、ホストのお母さんにハンバーガーを買ってもらいました。そのハンバーガーは私の顔よりも大きかったので、とてもびっくりしました。日本とはパンの生地が違います。中には大きなハンバーグの他にレタスやトマトなど数種類の野菜が入っていておいしかったです。昼食の後にも、私の家族や友達にお土産を買うために、いろいろなお店を回りました。買い物をして家に帰ると、イーダの友達やクラスメイト数人が遊びに来ると聞かされたので、パーティの準備をしました。準備の合間に、ホストの妹のマチル



デとペットの犬と一緒に遊びました。マチルデとはそれまで話すことが少なかったのですが、一緒に遊んでいるうちに仲が深まりました。イーダの友達や登別の中学生が集まりパーティが始まりました。水遊びをしたり、トランポリンで遊びました。デンマークの各家庭には、必ずと言って良いほど大きなトランポリンがあ

るそうで驚きました。その他に、マシュマロを焼いたりカラオケをして、良い思い出が出来ました。この夜は、12時頃にベッドに入りぐっすり眠ることができました。

8月19日（日）：イーエスコウ城見学

鷺別中学校3年 高城 萌香

午前9時半頃、イーエスコウ城に行くために、ホストのカロリーネと妹のミレマリエ、お母さんと車で家を出ました。車中で、お互いの家族の話をしました。カロリーネやミレマリエが私に話したいことをデンマーク語から英語に直せないでいるとお母さんが代わりに話してくれたり、私が二人に話したいことを英語からデンマーク語に直してくれて本当に助かりました。イーエスコウ城の敷地に入ると庭があり、その庭を抜けると湖があり、その少し奥にイーエスコウ城がありました。そこで写真を撮りカロリーネやマチルデと鎌田さん、イーダと小和田さん達と一緒にお城の周りや城内を回るようになりました。まず初めに行った場所は吊り橋で渡りながら散策する所でした。吊り橋に行くために、ひとつの段差が大きい急な階段を登りました。吊り橋はすごく揺れて怖か



ったです。その吊り橋を渡り終え下に降りると小さい子供達が遊ぶような遊具のある広場に着きました。皆で遊具に乗り、少し話をして吊り橋を登るところがあった大きな広場に戻り、売店で大きなアイスを買って食べました。迷路にチャレンジした後、昼食を食べました。昼食の後でお城の手前にあるお土産店で、スノー

ドームやボールペンなどを買い、イーエスコウ城の中を見学しました。1445年に完成したこのお城はとても美しく、城内の壁には動物の剥製がたくさん飾られていました。その数は、数え切れないほどの多さで驚きました。お城の1室には、凄く小さいベットやドレスがあり、その時代の人達が小柄だったからではないかと思いました。イーエスコウ城の最上階の屋根裏には、お城を守っているとされる人形がありました。この人形を動かすとお城が崩れてしまうと言う伝説があり、今でもそのままに残されています。

イーエスコウ城を出て家に戻ると私は急に眠くなり1時間ほど寝てしまいました。起きてから、マチルデの家に行くと、カロリーネはマチルデと鎌田さんとすでにプールに入り終わっていてトランポリンをしていました。私も水着を借りて鎌田さんとプールに入り、トランポリンをしました。すると同じ7年生のニコルも加わり、カロリーネとマチルデの家の前にある大きな広場で野球のようなゲームをしてから、チキン、ソーセージ、ハンバーガー、チーズとマンゴーなどが入ったサラダ、茹でた皮付のじゃがいもにバターを乗せたものなど豪華で美味しい夕食を食べました。

カロリーネの家に戻るとカロリーネの家族が私の家族へお土産をくれました。そしてこの誕生日を迎えた私に可愛いネックレスをプレゼントしてくれました。ホームステイの2日目に、私の誕生日が近いからといって苺のタルトケーキをご馳走してもらったので、2つもプレゼントを貰ってすごく嬉しかったです。



8月20日（月）・8月21日（火）：帰国

幌別中学校2年 鹿野 睦美

ホストファミリーとの最後の朝は、別れがつかなくてあまり話ができませんでした。朝食を済ませ、片付けをしてから、サンドウィッチをもらいました。いつもと同じだったけれど、今日で最後だと思うととても悲しくなりました。車に荷物をつんで、リング駅まで行きました。リング駅は初めてホストファミリーと会った場所でしたので、この駅で別れるのはとてもつらかったです。初めてホストファミリーと会った時はとてもワクワクしていたけれど、こんな楽しい日々が終わりだと思うととても寂しかったです。電車を待っている間は萩原さんと話をして、寂しさをまぎらわしました。しかし、電車が来てもう会えないのかと思うと涙が出そうでした。別れを告げるのはとてもつらかったです。また、この家でホームステイしたいと思いました。



電車に乗り、リング駅からオーデンセ駅を経由して、コペンハーゲン空港駅に行きました。オーデンセ駅からコペンハーゲン空港駅までは1時間ほどあり、みんなと思い出話をしたり、トランプをしたりしました。

空港駅に着いて、昼食にサンドウィッチとピザを食べ、買い物をしてミュンヘン行きの飛行機に乗りました。その瞬間、たくさんの思い出がよみがえってきました。たくさん話をして、たくさん笑ったこと、ホストが優しく接してくれたことなど、とても良い思い出です。ミュンヘン空港では4時間半の待ち時間の間買い物などをして過ごしました。その後、成田行きの飛行機に乗りました。ミュンヘンから成田までは約11時間半でしたが、私はほとんど寝ていたのであまり時間の長さは感じませんでした。機内での朝食を食べ終え、1時間ほどで成田に着きました。滞在中はホストファミリーやデンマークの人たちに囲まれて生活していたので、成田空港を歩くと多くの日本人がいて日本に戻ってきたという感じがしました。成田から飛行機に乗り千歳まで行きました。成田からの飛行機が遅れたので、こんなこともあるのかと驚きました。千歳に着き、そこから市バスに乗って市役所に行きました。バスの中では7泊8日の旅を振り返って、いろんな話をしました。

初めての海外で、デンマークに着いたときはワクワクしていた反面、不安も

ありましたが、とても楽しく過ごせたと思います。困ったこと、怖かったこと
もありましたが、とても貴重な体験ができました。

研修テーマ

デンマークの文化・自然遺産について調べます

緑陽中学校 2年 鎌田 諒

私が調べたデンマークの文化・自然遺産は4つあります。

1つ目の文化遺産は、「ロスキレ大聖堂」です。「ロスキレ大聖堂」は、デンマークの首都コペンハーゲン近郊のロスキレ市にあるゴシック様式の大聖堂です。この大聖堂はデンマーク代々の君主が葬られてきた事で有名です。

2つ目の文化遺産は、「イエリング墳墓群」です。

「イエリング墳墓群」は、デンマーク、ユトランド半島中部のイエリング近郊で発見されたルーン文字で刻まれた、10世紀の石碑で知られる墳墓群で石碑はデンマークの国家の起源を示す貴重な文字資料です。

3つ目の文化遺産は、「クロンボー城」です。

「クロンボー城」は、コペンハーゲンから北に、約30Kmのバルト海に面した海岸線にあり、わずか幅7Kmのエーレスンド海峡（カテガット海峡の最奥）を挟んで、スウェーデンのヘルシンボリと対峙します。

「クロンボー城」の前身にあたる砦を築いたのは1420年代です。本格的に、城と呼ばれるようになったのは1574年から1585年にかけて大改造が行われてからです。目的は、時代遅れとなった要塞機能の再強化と加えて王宮としての機能追加のためです。完成した頃にはルネサンス式の建造物となりました。この頃から「クロンボーン」と呼ばれるようになりました。

ロスキレ大聖堂は1995年に、イエリング墳墓群は1994年に、クロンボー城は2000年に、それぞれユネスコ世界遺産に登録されました。

4つ目は自然遺産「イルリサット」です。「イルリサット」はグリーンランド西岸中部に位置する町です。「イルリサット」はグリーンランド語で「氷塊」という意味です。

私はデンマークに行って、このような文化・自然遺産がどのような

目的でできたのかを調べ、日本の文化・自然遺産との共通点や相違点をまとめたいです。



デンマークの文化・自然遺産を調べて

緑陽中学校 2年 鎌田 諒

私はデンマークの文化自然遺産を調べました。私がデンマークに行く前に調べた 4 つの遺産は実際に見学することはできませんでしたが、伝統的な花祭りや歴史的な建物、登別と関係の深い城を見ることができました。

オーデンセの街を見学した時は、本などで見るような建物がいくつもありとても驚きました。私たちは、そのうちのひとつ「聖クヌート大聖堂」に立ち寄りました。聖クヌート大聖堂は、あの「アンデルセン童話」の作者アンデルセンが洗礼を受けたことで有名です。また、「赤い靴」というお話もこの大聖堂での自らの経験をもとに書いたと言われています。200年以上もの長い歴史のある大聖堂はとても綺麗で、中に入ると別世界に来たのではないかと思うほどでした。中にはパイプオルガンや聖書などがあり、椅子などは主に木で作られていました。



私たちは伝統的な花祭りも見学しました。その花祭りは年に何度も開催されるもので、とてもにぎわいがあり、美しく装飾された花を見ることができました。その中でも、花を白鳥にかたどった飾りが印象的で、それは大きくとても綺麗でした。また、花祭りでは、花の種や苗を買うこともできます。

ホストファミリーと過ごす最後の日には、登別マリパークニクスのモデルとなった「イーエスコウ城」の見学に行きました。外から見た時「マリパークがここにもある。」と、少し驚いてしまいました。場内には、城主が使っていたものやコレクションなどがあり、どれも珍しいものばかりでした。屋根裏部屋に行くと木の柱が何本も立っているところがありました。それは、イーエスコウ城を支える大事な柱だということを教えてもらいました。



デンマークに長い歴史を持つ建物が数多く残っていたり、伝統的な行事が続いているのは、デンマークの人々が古きを大切にしている証拠だと思いました。

デンマークロラン島の風力発電について調べます

緑陽中学校 2年 木村 憲昭

ロラン島は、コペンハーゲンから南へ約 100 キロに位置し、人口は約 6 万 5 千人で、風力発電で使用電力の 100%をまかっています。ロラン島の洋上風力発電パークは東京ドーム 1200 個分の広さがあり、ロラン島で必要とされる電力の 2 倍以上の電力を発電しているそうです。海と陸との風力発電で、消費電力の 5 倍以上の電力を作っています。そして、この電力はコペンハーゲンへと送られています。

ロラン島が風力発電で 1 番になったのには、理由があります。1973 年に、世界的なオイルショックがあり、冬でも暖房がない状態が起きました。そして電力を作るためには、石油に頼らない原子力発電所を作るといことになりました。冷却水となる海水の利用に便利な土地として、ロラン島に



原子力発電所の計画が立ちましたが、15 人の市民の有志が「原発に待った」をかけました。エネルギーを何から作るかを決めるのは、一人一人の市民であり、原発の利点、不利点を載せ、賛成派や反対派の意見を載せたパンフレットを作ったそうです。また、原発とエネルギーについての勉強会も開催されました。そうすると、利点よりも不利点の方が心配と言う市民が増えました。その結果、1985 年に原発計画を断念し、風力発電に力を入れる事にしました。

デンマークでは、何かあったら話し合うと言う素地があったからこそ、このような話し合いも出来たそうです。ロラン島では自分達でエネルギーを選んでから、暮らしが変わり、質素だけれど、幸せ感が漂っているという感じがします。エネルギーの選択が、自分たちの生き方の選択に繋がったようです。

このことから、デンマークは原発に頼る事なく安全に暮らせる国だと思いました。僕はデンマークの人達が日々の暮らしの中で、どのように電気を大切に使っているかホストファミリーに聞いたり、実際に生活する中で学びたいと思います。



デンマークロラン島の風力発電を調べて

緑陽中学校 2年 木村 憲昭

僕は、ホストファミリーにロラン島の風力発電について聞きました。ロラン島は、沖縄と同じくらいの面積で、約 600 基の風車があり、その半数は、住民が持っている風車だそうです。

風車を建てるのにはルールがあり、風車から 10km 以内に、2 年以上住んでいることが、条件だそうです。高さ 45m もある発電用の風車が、至る所に立ち並んでいて、エコの島ロラン島のシンボルです。ロラン島は、風力発電で電気を作り、その電力を主にコペンハーゲンや多くの都市に送っているため、デンマークにとっては、無くてはならない島だと言うことを教えてもらいました。ビーチに連れて行ってもらった時、遠くの方にたくさんの風車を、見ることができました。

それから、どれくらい電気を大切にしているのかを聞くと電気料金がとても高いので灯りは、らんたんを使用、使わない時はこまめにスイッチを切り、出来るだけ電気を使わないことと言っていました。そして、僕が滞在していた時も日が長いため午後 9 時でも家の照明を点けていませんでした。



また、日本の原子力発電についてどう思っているのか聞いてみると、東日本大震災での原発事故については、とても驚いたし、デンマークは原発を持たなくて良かったと言っていました。そして日本のことを、とても心配しているとも言っていました。

僕は、これから日本も電気を大切にを使って、自然エネルギーに力を入れるなどして出来るだけ原子力発電に頼らない国にした方が良いと思いました。



デンマークの気候について調べます

鷺別中学校 2年 金澤 亜有菜

デンマークは、北欧諸国の中で南に位置しています。ユトランド半島と、ふたつの島を中心に、大小 500 近い島々からなる国です。四季もはっきり分かれています。

気温はあまり日本と変わらないそうです。2009 年の春は、平均気温が 8.3 度で日本は 11.2 度です。5 月は 26 度ぐらいになる日もあり、半袖で過ごす日が多くなることもあります。夜は氷点下まで下がることもあります。夏は、平均気温が 16.2 度です。夏はさほど暑くならず比較的涼しいらしいです。日中は暑い日で 30 度近くなりますが、朝晩は 15 度ぐらいになるので、1 日の気温差が激しいです。秋は、平均気温が 9.8 度ですが 9 月に 28 度と高温になったり、夜中に氷点下 4.9 度の日もあったそうです。冬は平均気温が 1.5 度で、夜中は氷点下 15 度ぐらいにもなりますが、暖流や偏西風の影響で、緯度の割に寒くなく、非常に暮らしやすい気候といわれています。



降水量は、温帯気候の中ではやや少なめで、比較的年に差があります。ちなみに、日本は台風の影響もあり、9 月・10 月が最も降水量が多くなります。また、年間の降水量では、コペンハーゲンが 614.4mm、東京では 1486.2 mm と 2 倍以上の雨量の差がありました。

以上のことから、気温は日本とあまり変わらず住みやすい気候です。降水量が少ないため、少し乾燥しているのではないかと感じました。

実際にデンマークへ行って、この気候が人々の暮らしにどのような影響を与えているのかホストファミリーに聞くなどして、知りたいと思います。そして、そのことをもとに、日本との違いについても見つけていきたいです。



デンマークの気候を調べて

鷲別中学校 1年 金澤 亜有菜

デンマークでは、天候に恵まれ、気温が高く夏らしい天気を体感することができました。

デンマークのこの時期は日が長く、日の出は午前5時過ぎ、日の入りは午後9時頃のため夜遅くまで明るく、放課後はホストファミリーの家に皆で集まって午後9時や10時くらいまで遊んで過ごしました。

デンマークに行く前は、朝と夜は涼しく、昼間は気温が高くなると聞いていたように、日中は晴れていると気温が高く登別よりも暑いと感じました。実感として、夜は、昼間の暑さがそのまま続いて湿気が多く蒸し暑い時が多かったです。登別に比べると、デンマークの方が湿度が高く、ぐっすり寝ることができませんでした。

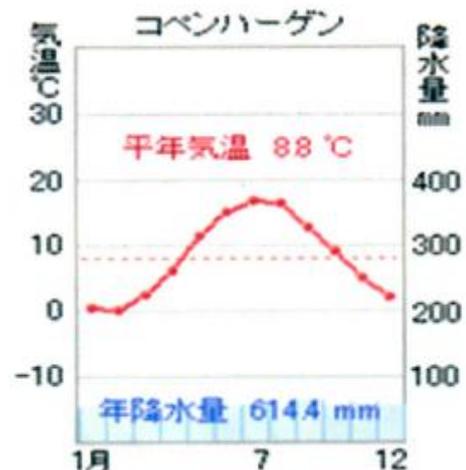


朝は、涼しく心地よい風が吹いていましたが、室内には夜の湿気が残っていて、蒸し暑かったです。理由として考えられるのは、デンマークでは、日中から夜にかけて家の窓やドアをほとんど開けっ放しにしているため室内が戸外の状態とほぼ変わらず、室内に湿気がこもっているのだと思いました。朝は曇っていましたが、徐々に青空に変わって行き

ました。これも気候の特徴のひとつだと思います。

デンマークでは、1日だけ雨が降りました。しかし、そのため新たな発見がありました。それは、雨が降ったときは、涼しく蒸し暑さは感じなかったということです。

結論として、デンマークは、1日を通して比較的湿度が高く、また、湿度も高いため乾燥することはないけれど、過ごしやすい気候だと思いました。



デンマークの政治について調べます

鷲別中学校 3年 高城 萌香

デンマークは君主の力が強い立憲君主制です。一方日本は、立憲君主制に基づく議院内閣制という見方があります。しかし、天皇は政治的権限を持っているわけではないため、君主制とは言えないが、人民もしくは人民の大部分が最高決定権をもつ共和制とも言えないなど意見はさまざまです。また、議会もデンマークの一院制に対し日本は二院制です。

そして、議員について日本と違って驚くことがあります。デンマークでは、市議会議員は現在就いている職業のまま立候補できるということです。議員に立候補するのにお金はかかりませんが、給料がありません。（ただし、議会を



開いている間の時給や交通費は支払われます。）ですから、看護師は看護師のまま給料をもらいながら議員の職につくことになります。みんな職をもって議員になっているので、議会を夜に開くなどの対応をしているそうです。また、市は市議会議員から選出され、給料が支払われます。市長になれば今までやっていた職を退職し、市長の仕事に専念します。



デンマークは町議会議員、市議会議員、州議会議員、国会議員がいます。政治家の職にしかついていないのは国会議員だけで、そのほかの議員はそれぞれの職についたまま、議員と現在の職業を掛けもちしています。

また、国会議員は市議会議員と掛けもちをすることもできます。このような政治のあり方だからこそ、さまざまな職業の人がさまざまな職場環境のこと、身近な疑問に気づくことができ、いろいろな立場の人が、あらゆる面で国民の意見を尊重することができるのだと思います。

デンマークではホストファミリーに、デンマークの政治のあり方についてどう思っているのか、直接話を聞いてきたいと思っています。そして、デンマークは国民の幸福度が世界第1位と言われているのですが、本当にそうなのかを質問するなどして確かめてきたいと思っています。

日本とデンマークの政治の違いを身をもって体験し、政治が人々の暮らしに与える影響を学びたいと思います。

デンマークの政治を調べて

鷲別中学校 3年 高城 萌香

私の研修テーマについて、ホストファミリーや他の人達に詳しく話を聞けなかったものの、身をもってデンマークの政治が人々の生活に影響するものを体験できました。

まず、どこのお店に行っても物価が高いということです。家族にお土産を買おうと思い、ストラップ、缶バッチ、食べ物などの価格を日本円に換算すると、改めて物価が高いことが分かりました。なぜ物価が高いのでしょうか。デンマークでは、無料で受けられる医療や教育、また、年金などに使われるお金は、税金で賄われるため、物価にかかる税金が日本より高いのです。

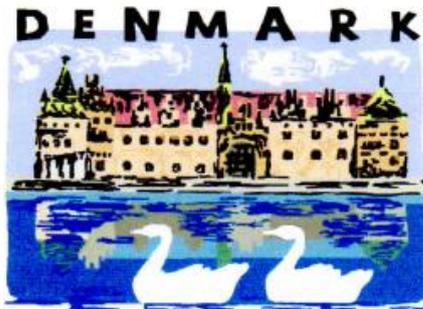
ホストファミリーとスーパーに買い物に行った時、日本との違いに驚いたことがありました。カートが無い代わりに、買い物かごに車輪がついて楽に移動することができます。このスーパーには高齢者のお客さんが多く、買い物かごに車輪を付けているのはお年寄りでも気軽にたくさんの買い物ができるように考えた良いアイデアだと思いました。



オーデンセからリングゲへ向かう電車から、海中に設置された風車が見えました。風力発電は現在、国内消費量の約10%を担っているエネルギー源です。また、1986年に起きたチェルノブイリの原発事故を身近なものと考えて脱原発と環境保護を訴える人たちが出てきて、この訴えを背景にデンマークは国を挙げて風力発電の導入に力を入れています。昨年3月11日、日本では東日本大震災が起き、その影響で今でも家に帰れない人が多く、そのため脱原発を訴える人たちがたくさんいます。これを機に日本でも原子力発電などに依存せず、日本の将来を見据え、新たなエネルギー発電に力を入れていけば良いと思います。すぐに移行はできないにしても、多くの人々が少しずつでも自然エネルギーへの意識を高めれば良いと思いました。

デンマークの政治を調べて分かったことは、物品にかかる税金が高くても、いろいろなことに見返りがあること、環境への配慮も随分前から国が力を入れて実行していること、デンマークの政治は国民に見えるような政治をしていて、人々の生活を豊かにしているものだと、分かりました。

デンマークの観光名所について調べます



幌別中学校 2年 鹿野 睦美

デンマークの正式国名は「デンマーク王国」で、人口は約 550 万人と北海道、兵庫県の人口とほぼ同じです。デンマークは平坦な国土で暖流の影響で気候もおだやかです。

デンマークにはたくさんのお城があり、観光名所となっています。その中から 3 つのお城を紹介します。

1 つ目は「イーエスコウ城」です。イーエスコウ城は、1554 年にフラン・ブロッケンフスによって建設された城で、堀に囲まれています。イーエスコウ城は登別マリパークニクス城のモデルになっていますが、イーエスコウ城とニクス城は正面と裏口が逆になっているという違いがあります。

2 つ目は「クリスチャンボー城」です。この城は、デンマーク王室および政府の迎賓館として使われているほか、国会議事堂や内閣府、最高裁判所など三権に関する施設があります。1794 年、1884 年に二度の火災がありました。この火災が起こる前までは王宮として使われていましたが、その後王宮として使われているのは「アマリエンボー宮殿」です。アマリエンボー宮殿は、一部が博物館として公開されています。

3 つ目は「クロンボー城」です。1574 年にデンマークの王フレデリク 2 世が 11 年をかけて旧城を改築したものでしたが、1629 年の火災で焼失しました。その後再建され、2000 年にユネスコ世界遺産に登録されました。

そしてデンマークはレゴ社がある国として有名です。レゴブロックは世界でも有名なおもちゃです。そのレゴブロックをたくさん使ってできているのが、「レゴランド」です。レゴランドは 1968 年の開園で、一般的なアトラクション以外の全展示物がレゴでできているテーマパークです。使われているレゴは 4 千万個以上といわれています。

また、デンマークはアンデルセン童話の作家ハンス・クリスチャン・アンデルセンの生まれた国でもあります。そのアンデルセンに関する観光名所について紹介します。「アンデルセン博物館」はアンデルセンの生涯について自筆原稿や手紙、遺品などを紹介しています。またアンデルセンは切り絵作家としても有名で、その作品も展示しています。次は、「アンデルセンの家」です。この家はアンデルセンが 2 歳から 14 歳まで住んでいた家です。貧しい靴屋で小さな家に一家 8 人で暮らしていたといわれています。建物は当時のまま保存され、写真や手紙などを展示しています。

また、アンデルセン童話の人魚姫を題材にしてつくられたのが「人魚姫の像」

です。彫刻家エドバー・エリクセンが 1913 年に作ったもので、高さは 80cm です。この像は足首までが人間のままになっています。

デンマークの観光名所を調べてわかったことは、アンデルセンに関係している観光名所が多いことです。デンマークでは、アンデルセン童話について調べたり、ホストファミリーにアンデルセンについてどう思っているのかなどについて聞いてみようと思います。そのなかで、アンデルセン童話と人々の関わりについて感じたいです。また、登別とデンマークの観光名所のちがいなどについても学びたいと思います。



デンマークの観光名所を調べて

幌別中学校 2年 鹿野 睦美

私が行った観光名所は、「アンデルセン博物館」と「イーエスコウ城」、「オーデンセ動物園」、「レゴランド」です。

アンデルセン博物館には、アンデルセンの歴史、経歴、芸術、生涯、作品の5つ展示室がありました。展示室には、紙を横から見ると「DENMARK」、正面から見ると「H.C.ANDERSEN」と書いてある作品があり、どのように作るの



か不思議に思いました。また、アンデルセンの一生についての出来事などを5枚の絵にして飾っていたところもあり、分かりやすく勉強になりました。アンデルセン博物館に行く途中、私たちは市内を歩いたり、バスに乗るなどしました。その時感じたことは、信号が変わるのが早いこと、そしてその信号をよく見ると、アンデルセンの形になっているものがありました。他にも市内にはアンデルセンに関係しているものがありました。例えば公園にアンデルセンの銅像があ

ったり、アンデルセンの両親が結婚式を行った聖クヌード大聖堂があったり、デンマークのコインにアンデルセンの横顔が描かれているものなどがありました。オーデンセの人々にとってアンデルセンは、とても偉大な人物だと思いました。

イーエスコウ城はとても広くて、お城の中には狩りの廊下や部屋があり、そこには城主が捕らえた動物や狩りに使った武器が飾ってあり、階段を上ると洗面所のような場所もありました。場内にはイーエスコウ城の歴史が分かるものが展示してあり、たくさんのことを学びました。また、屋根裏部屋にある人形を動かしてしまうと城が崩れるといわれる伝説がありとても面白いと思いました。お城以外にも森の中につり橋があったり、迷路やおばけ屋敷もありました。私が印象に残っているのは、馬車に似た乗り物に乗って森の中の豊かな自然を見るというものです。このように、観光名所の中に遊んだりできる



ところや、歩いて見るだけでなく乗り物に乗って見学するというようなものがありました。これらは、オーデンセ動物園にも似たものがありました。子ども

が遊べる公園や列車のような乗り物に乗って動物園内を一周したり、船に乗って見学することができました。これらは登別では見ないので、このような仕組みを取り入れたら多くの人に愛される観光名所になると思いました。

レゴランドには、たくさんのレゴを使ってできているデンマークの街や港、空港などの展示物がありました。また、レゴで作った電車が走っていたり、楽器などがありました。とても細かいところまで正確に作られていたので驚きました。他にもジェットコースターや水族館、コーヒーカップなどがあり遊園地のようになっていました。

遊園地と水族館が一緒にあるのは珍しいと思い、登別にもあれば人気の観光名所になると思いました。

デンマークの食文化について調べます

幌別中学校 2年 萩原 愛美



デンマークは日本と同じように、朝（8：00 ごろ）、昼（12：00～14：00）、夜（18：00～20：00）に食事をするのが一般的です。

朝は、シリアルなどの軽いものにコーヒー、紅茶が多く、昼はオープンサンド（パンにバター、肉、野菜などをのせたもの）が主流です。夜は一日の食事のメインで、食事にゲストを招待するのは一般的によくあることです。

食事のマナーは日本と違い手に皿を持って食べてはいけない、とされています。食後はナイフとフォークは平行に並べ、お皿の右側に置きます。おかわりがほしいときは、フォークの先が上を向くようにしてお皿の上に置きます。

バイキングのときは最初は少しの量にして、すべて食べてからおかわりを足します。パンは手で食べることもできますが、ランチのオープンサンドはナイフ、フォークで食べることもあります。

デンマーク語での食事のあいさつは、「かんぱい」が「スコール」「ごちそうさま」は「タック・フォ・メル」ですが、「いただきます」は特にないとされています。

また日本でもよくみみにするデニッシュパンのデニッシュとは、デンマーク風という意味です。

また、デンマークのクリスマス・イブでは、キイチゴのソースをかけたライス・プディングが食卓に上ります。

プディングにはアーモンドが一粒だけうめてあり、このアーモンドを見つけた人がプレゼントをもらえるという風習があります。



私はホストファミリーと一緒に料理をして、デンマークの伝統的な料理を教えてもらいたいです。

特に、上に書いたライス・プディングにはとても興味があるので、クリスマスではないですが、ぜひ味わってみたいです。そして、

機会があれば日本の料理も教えてあげたいと思います。

ホスト・ファミリーとの食事を通して、日本とデンマークの食文化の違いを知り、比較したいと思います。

デンマークの食文化を調べて

幌別中学校 2年 萩原 愛美

食事はデンマークでも日本と同じ 1 日 3 食なので、毎日が食文化の勉強でした。特に食事会や誕生日会ではたくさん学ぶことができました。

私のホストファミリーの家では、1 度ごはんが出ましたが、ほとんどパンを食べていました。ごはんと言っても日本のごはんとは少し違い、パサパサしているごはんにはレーズンやオレンジ、果汁などを自分の好みに混ぜて食べます。パサパサのごはんはタイ米によく似ていますが、味は甘酸っぱくて違和感がありました。

デンマークには“ライス・プディング”というクリスマスに出る食べ物があると聞いていたので、ホストファミリーにどのような食べ物かを尋ねてみました。するとお父さんはライス・プディングを知っていたけれど、ホストのアナは知りませんでした。私と同年代の子は知らないそうです。日本の伝統料理でも今はあまり知られていないものもあるかもしれないと思い、日本についても調べてみたいと思いました。



デンマークで食べた物で 1 番おいしかったのは“ラオケーキ”です。ラオケーキはいろいろな色や味のクリーム、スポンジ、アイス、チョコなどが何層か積み重なってできているケーキのことです。私はそのラオケーキのコーヒー味が気に入りました。ほろ苦いコーヒーの香りがして、口に入れると溶けてしまうような感じでした。ひんやりしていて、いくら

でも食べられると思いました。もう一度食べたいです。その他にもたくさんのデンマーク料理を食べました。お菓子は色とりどりで量も多かったです。

テーブルマナーでは、食事の時はお皿を手で持つてはいけない、誕生日会ではテーブルやお皿などをたくさんのデンマークの国旗で飾るなど、日本には見られない文化があり、ここには書ききれないほど学んできました。



デンマークの食べ物はどれもおいしく、日本で味わったことのない食べ物もありました。言葉が通じなくても食べた後、親指を立てたり、笑顔になったりするだけで気持ちは通じるので、食べ物とは人と人とを繋ぐことができる大切なもの

のだと思いました。

私はデンマークの食文化について調べてみて、デンマークと日本との比較が勉強になりました。デンマークにあって日本にない食文化や、日本にあってデンマークにない食文化を見つけることができました。この研修を通じて日本にも興味がわきました。

デンマークの医療について調べます

西陵中学校2年 神 沙希

デンマークでは医療費は基本的に無料で、「家庭医」と呼ばれる主治医を一人一人に割り当てる制度があります。

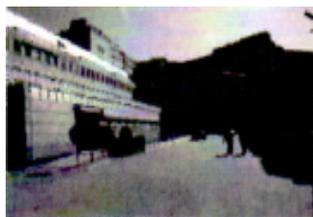
住民は、病気になったり具合が悪くなった場合、いきなり自分の判断で大きな病院に行くことはありません。まず、家庭医を通してその後高度な医療が必要と判断された場合、病院での診療が受けられます。それは、医療費無料という制度下において身体にちょっとした異変を感じただけでも大病院に駆け込む人が多くなる可能性があります。家庭医はこうした状況を避けるために、病院で治療を行うべき症状であるか最初に判断する役割を担っています。家庭医制度は医療費の膨張を食い止めるシステムでもあるわけです。

また、デンマークの医療制度においては、命に関わる病気なのか、今すぐ治療が必要な病気なのかを医師が判断し、治療への優先順位がつけられます。

例えば、風邪は家庭医に行っても「三日寝ていれば治る」といった具合で薬はくれません。こういった「人間が本来持っている治癒能力で事足りるものには医療は手を貸さない」というのが基本姿勢のようにも思えます。

このように、「高福祉」と言われながらも、本来持っている治癒能力で治せるものについては、厳しい対応だと思えます。ですが、命に関わる病気にかかったり、健康を害する症状が出た場合は最大限の治療を施し、世話をしてくれます。

また、病院には家族のための宿泊施設があり、子供が入院した時には親一人の滞在費は無料で、病院までの往復の交通費や車のガソリン代まで退院後に帰ってくる、退院に際しては医師、看護師などの治療スタッフ、それに自治体のサービス提供者の責任者が、患者と家族の退院後の必要なサービスについて協議し、退院計画を作って患者の自宅での快適な生活を保障するシステムが定着しています。そして、高齢者の場合だと、退院後の住宅改造・リハビリや電動車椅子のことなど退院会議で決まった内容が自動的に提供されます。



これらのことから、デンマークには自分の力で治せるものについてはできるだけ自分で直させるが、命に関わることになると、国は入院中だけのことでなく、退院後も手厚く援助してくれるという点が、「高福祉」と呼ばれる理由だ

と思います。

私は、デンマークに行って、ホストファミリーに実際にかかる医療費や、家庭医のことをどう思っているか、今の医療制度に満足しているかなどを聞いてみたいと思います。また、事前に調べたこと以外で、実際に生活している人たちの現状を知って、その課題点や日本との違いについても学びたいです。

デンマークの医療を調べて

西陵中学校2年 神 沙希

私は研修テーマについて、老人ホームを見学したり、ホストファミリーに聞くなどして、調べました。

私が訪ねた老人ホームは、廊下も含めとても広く、少し奥に行くと、厨房もありました。私たちは、もうすぐ105歳になるというおばあさんにお話を聞きました。そのおばあさんは、友達の部屋に遊びに行ったり、毎日家族が会いに来てくれたりと、充実した生活を送っていました。部屋は、私たち11人全員が入っても、まだまだ人が入りそうなくらいの広さがありました。



私は、老人ホームは入居したらなかなか家族に会えない、自由に行動ができないなどの、暗いイメージを持っていました。しかし、この老人ホームは、素晴らしい施設で、毎日を笑顔で生活することができそうなので、私は、老後をこのような施設で過ごすことができたら良いと思いました。

次は、医療費の無料について聞く事ができました。

デンマークでは、総合病院・眼科・耳鼻科は無料で診察を受けることができますが、歯科診療については、高額な治療費を支払わなければなりません。その理由は、「目や耳などの病気は自分で防ぐことが難しいけれど、虫歯などは自分で防ぐことができるからだと思う」、また、「デンマークでは貧富の差に関係なく充実した医療を受けることができるので、とても良いことだと思う」とホストが言っていました。日本は、難しい治療などは多額の費用がかかるため、患者だけでなくその家族にも大きな負担となってしまいます。日本も、デンマークのように、貧しい人も裕福な人も同じように充実した医療を受けられるようになれば良いなと思います。

デンマークの社会について調べます

登別中学校 2年 小和田 奈々

デンマークでは、国民の生活は国の責任において保障されています。医療費はもちろん、教育費や老人ホームの費用などが無料になっています。ただし、その分税金が高いです。例えば所得に対する税負担率は、50%~70%で、直接税が38%~62%、消費税は25%などヨーロッパで一番高くなっています。ちなみに、日本の消費税は5%です。

また、デンマークは国民の教育水準が高く高齢者福祉や児童福祉も充実しています。「医療制度と健康」「教育」「環境」「経済的豊さ」など、100件以上のデータを基に表わされる「幸福度」は世界一位になっています。しかし医師や看護師の給料が低いことから、医療従事者の慢性的不足に悩んでいます。EU諸国やインドから医師や看護師を呼び寄せていますが、患者の手術や診察の予約は数ヶ月待ちなどが普通になっています。

以上のことから、デンマークは国民に対しておこなってくれることは多いですがその分、国民一人一人の負担が多いことが分かりました。

このことから私は、デンマークへ行ってホストファミリーに、税金についてや国の政策について質問し、勉強したいと思います。実際にホストファミリーと生活する中で、日本とデンマークの税金や国の政策を比較して、その違いを学んできたいと思います。



デンマークの社会を調べて

登別中学校 2年 小和田 奈々

デンマークは税金が高いのですが、そのことについて国民が不満を持っていないのか、とても疑問に思いホストファミリーに聞いてみました。給料の50%程度を税金として支払っているため、学校や病院、老人ホームなどにかかる費用は、その税金を使うので国民は、歯の治療を受けるとき以外は、無料でサービスを受けることができ、とても満足していると話してくれました。

リングフリー校の校内では、靴を履いている生徒とそうではない生徒がいたり、約1時間の授業の後には、20分程度の休み時間がありました。朝会の時に歌を歌いますが、皆が立って歌うことはキリスト教の信仰の一部であることが分かりましたし、私たちも体験することができました。このような習慣をとっても誇りに思っているそうです。

その他、デンマークはとても自由な国で、問題点と言えば、若者がお酒を飲みすぎるのだと話してくれました。また、デンマークでは、キリスト教を信仰している家庭が多く、ホストのいところが病気で亡くなった時、お母さんは腕にタトゥー（入れ墨）をほりました。これは、亡くなりたいところが、いつまでも神に守られていられるようにとの願いが込められています。

さらに気がついたことは、車が少なく、身近な交通手段は自転車で、多くの人が利用しています。列車の中に自転車を持ち込むことができるし、駅の周りにも多くの自転車が止めてあり、自転車専用道路も整備されていました。日本でも歩道に線が引いてありますが、デンマークでは車道の横に必ず自転車専用道路があり数多くの自転車が走っていました。

また、図書館を訪問した時、館内には、子供が遊べる場所があり、明るい色使いがされていて、暖かい雰囲気を感じられました。日本の図書館のイメージとは違い、とても印象的でした。

このように、デンマークの社会について学んだことで、デンマークが幸福度の高い国と言われる理由が分かりました。それは、国民一人一人が国の歴史や制度などを常に考えながら生活することで、環境を守ったり経済を豊かにしています。医療や教育にも力を注ぎ、国民を大切にしている国だと思いました。



デンマークの教育について調べます

明日中等教育学校 1年 赤松 和

デンマークの学校は、9年制で「folkehojskolen（フォルケホイスコーレ）」と呼ばれています。どこでも小学校と中学校が1つになっていて、1年生から9年生までの生徒がいます。しかし、もっと深く学習したいという自分の意志で、10学年に進むことができます。生徒の半数以上が10学年に進級しているそうです。デンマークでは、「学校教育では試験を用いるべきではない」との考え方があり、6・7年生（約中学1年生）までは試験が禁止されています。このように、日本との違いは数多くあります。それを次の表にまとめました。

国 比べる事	デンマーク	日本
学区	ない・転校は自由	ある・分けられている
1学級の人数	法律で1学級28人以内と定められている	1学級40人以内と定められている
教員	私立学校の場合、教員資格がいらぬ	私立学校であっても教員資格が必要
教科書	学校専用図書館から借りている	毎年、国から新品を無償でもらえる
制服	ない・国で有名な2校だけ制服がある	中学校はほとんど決まっている

上の表からもわかるように、デンマークと日本では、教育制度が大きく違います。日本では私の通っている学校のような一貫校は多くありませんが、デンマークでは一般的です。また、今回私が1番驚いたのは、表にはありませんが、日本とデンマークの学習方法には大きな違いがあるということです。日本では、先生の指示のもと生徒が学習することが多いですが、デンマークの先生は何も言わず生徒に任せることが多いそうです。

私は、このように全く違う学習をしてきたデンマークの同世代の人たちと同じ教室で学習することで、学習に向かう姿勢の違いを、身をもって感じたいと思います。また、ホームステイを通して、自分の将来への考えについても深めていきたいと思っています。

デンマークの教育を調べて

登別明日中等教育学校 1年 赤松 和

私は、研修3日目、リングフリー校に行きました。学校に着いて、まず驚いたことは校舎でした。日本でいう家庭科室や理科室、美術室などがそれぞれ別々の建物になっていました。学校の大きな敷地に約15棟の建物、遊具のある小さな公園、レンガの広場、大きな草原、綺麗な噴水、人工の小川がありました。その1つ1つが綺麗なデザインで、私はとても感動しました。授業が始まって私たち登別の中学生は、また驚いたことがありました。先生が授業の説明をしているのに、生徒が席を移動したり、ランチをとっていました。また、机がつながっていて自分の席はあっても、違うところに座っている生徒もいました。デンマークに行く前に調べたときに、日本との大きな違いは、先生があまり指示を出さないことだと分かりましたが、実際、そのとおりでした。私達は、勿論、日本の授業に慣れているので、とても違和感を感じました。



生徒は、家に帰ってからも宿題や勉強をほとんどしません。それどころかもう1度学校に集まって、みんなで水遊びなどをしているのです。

このように学習時間があまりない中で、なぜ、しっかりとした学力がつくのでしょうか。その答えは、家庭の中にありました。計算などは、母親や父親が日常生活の中で教えることが、デンマークではごくあたりまえのことでした。

また、事前の調査で調べた制服についても、新たな発見がありました。リングフリー校では小学生から中学生までが学んでいます。日本の中学生は、そのほとんどが制服を着ていますが、この学校では制服が無いようでした。

このように、事前調査で分からなかった数々の違いをみてくることができました。しかし、学習する環境や方法が違っても、同じ年齢の生徒たちは、皆同じなのだと感じることがありました。それは、感動すること、喜ぶこと、悲しむことなど、心が動かされることでした。

感想文

デンマークで過ごした日々

緑陽中学校 2年 鎌田 諒

私は初め、飛行機を降りてもここがデンマークだという実感が湧いてきませんでした。着いた時は午後 10 時を過ぎており、街の様子などがよく見えなかったからです。ホテルに着いてもあまり実感が湧かず、そのまま寝ました。

次の日、朝起きてカーテンを開けると全く日本とは違う風景が広がっていました。その時やっと、デンマークにいるという実感がしました。

オーデンセの街を見学して、ホストファミリーの家まで行きました。着いてすぐにトランポリンやプールなどで遊びました。夕食を食べた後も街を散歩したりアイスを食べたりして楽しく過ごしました。

デンマークに来て 3 日目には、リングフリー校でいろいろな授業を受けました。

4 日目は、みんなでレゴランドに行きました。レゴランドには、レゴだけで作られた飛行機や自動車などがありました。そのほかに、ジェットコースターもありました。私は正直苦手なのですが、「一緒に乗ろう！」と誘われてたくさん乗りました。怖かったけれど楽しかったです。その後、「買い物がない。」と、言ってみると「いいよ。」と言って連れて行ってくれました。いろいろおすすめの物や人気な物を教えてくれて助かりました。



5 日目は、ホストファミリーと一緒にオーデンセに行きました。オーデンセでは、花祭りとアンデルセン博物館のショーを見ました。ショーは何を言っているかよく分からなかったけれど、池に「人魚姫」が出てきて驚きました。また、その日は海にも行きました。気温が高く暑かったので、少し冷たい海水も気持ち良かったです。

6 日目は、イーエスコウ城に行き、お城を見るだけでなく他の遊具などでも遊びました。城内は城主が使っていたものやコレクションなどが展示されていました。この日でデンマークにいれるのが最後だったのでずっと遊んでいました。

最後の日、電車に乗って手を振っている時悲しくて泣いてしまいました。そのとき、「また、おいで」と言ってくれてとても嬉しかったです。

もし、また行ける機会があったら同じメンバーで行きたいと思いました。

デンマークでの思い出

緑陽中学校 2年 木村 憲昭

僕はデンマークでたくさんのことを学んで、とても良い思い出ができました。

まず初めに、コペンハーゲンに着いた時、すごく綺麗な街並みにとても感動しました。次の日の朝、団長と散歩をした時に大勢の人々が自転車で通勤していましたが、自転車専用のレーンが整備されていることが分かりました。

ホストファミリーの家では、英語とデンマーク語を教えてもらいながら会話をしました。最初は、家族の言っていることが全く分かりませんでしたでしたが、たくさん会話をするにつれてコミュニケーションがとれるようになり、皿洗いや鶏の世話などの手伝いもして色々なことを教えてもらいました。そして、ホストのラーセとはたくさん話したり、ゲームをしたり、外で遊びました。また、ラーセの友達の家で遊んだり、一緒にビーチへ行き、みんなで泳ぎました。そしてリングフリー校のクラスメートとは、野球やサッカーなどをして、とても仲良くなりました。

楽しかった思い出は、クラス全員でレゴランドに行ったことです。男子でグループになり、レゴランドを見学し、ジェットコースターに乗った時は、みんな水浸しになりましたが、大笑いしながらもう1回乗りとても楽しかったです。

6日目の夜、ホストのお母さんやお父さん、そしてラーセとデンマークで楽しかったことについて話をしました。たくさんプレゼントももらいました。

最終日の朝、ホストの車でリング駅に送ってもらい、お世話になったお礼を言いました。駅で電車を待っていると、クラスみんなが見送りに来てくれました。電車に乗る時、マックが僕にデンマークの国旗のキャンバスをプレゼントしてくれました。ホームを見ると、お世話になったみんながいて、涙が出そうになりました。

1週間の研修は、あっという間で夢のように過ぎました。街並みや文化の違いなど色々なことを学びましたが、人と人とのつながりは、変わらないと思いました。最後にこのような機会を与えてくださった皆さんにとっても感謝しています。本当にありがとうございました。



デンマークでの思い出

鷺別中学校 1年 金澤 亜有菜

私は、海外へ行くことは初めてなので、どのような体験ができるかとても楽しみでした。

コペンハーゲンに着いた時は、夜も遅く暗かったので街を歩いてホテルへ向かうときは、少し怖く感じました。

しかし、2日目からは、とても楽しく過ごすことができました。オーデンセでは、道子・ペダスンさんとメッテ・ハンセンさんの案内で、アンデルセン博物館や聖クヌー大聖堂を見学しました。オーデンセから列車で交流が行われるリングエへ向いました。リングエ駅でホストファミリーの人達と対面しました。私は、英語がほとんどできなかつたので、初めはホストの人達が何を言っているのか分かりませんでした。

3日目、私達は図書館や老人ホームを訪問しました。図書館でいくつか日本とは違うことに気がつきました。まず、文庫本がなく、本の大きさが様々なこと、また、日本の図書館は静かに過ごすことがマナーですが、ここには、子供が遊ぶことができる場所があり、雰囲気がとても明るいことなどでした。この日私は、ホストファミリーに箸の使い方を教えました。最初はうまく使えなかつたものの、すぐにコツを掴んで、上手に使えるようになりました。ホストから箸を使えるようになったという達成感が伝わってきたので、教えて良かったと思いました。



4日目にレゴランドに行きました。全てのものがレゴブロックで作られているテーマパークです。レゴランドを充分楽しんでリングエへ戻り、夕方、リングエフリー校で行われた食事会に参加しました。この食事会を通してみんなと距離が縮まって言葉が少し分かるようになりました。ホームステイでは、食事もマナーも日本とは違い、最初のうちは緊張していて何も分からなかつたけれど、少しずつ生活にも慣れ、言葉も単語で通じるようになりました。ホストの人達は、とても優しく、私が理解できるまで何度も説明してくれて、実の家族のように接してくれました。



8月18日は、一番良い思い出になりました。小和田奈々さんのホストの家に、私の

ホストと一緒に遊びに行きました。水遊び、焼きマシュマロ作り、カラオケなどをして過ごしたことが強く印象に残っています。

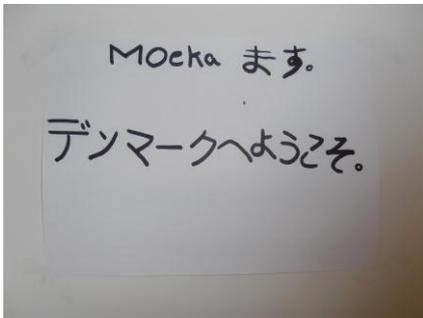
6日間はあっという間に過ぎ、別れの日が来ました。リングゲ駅では「もう少しここにいたい」という気持ちになりました。この6日間での体験は、2度と得ることができないと思える貴重なものでした。今回このような体験をさせていただき本当にありがとうございました。

デンマークでの日々

鷲別中学校 3年 高城 萌香

デンマークで過ごした一週間はとても有意義で思い出に残る日々となりました。派遣に応募したのは自分の意思でした。デンマーク行きが決まった時は受験生ということもあり、勉強のことを考えると不安になりましたが、今では行って良かったと心から思っています。

初日、長い長い飛行時間が終わり、コペンハーゲンに着きホテルに向かいました。とても疲れていたなので、部屋で早く寝ることにしました。



2日目に初めてホストのカロリーネと家族に会ったとき、ものすごく緊張していて何を話したか覚えていません。リングゲ駅で派遣団のみんなと別れカロリーネの家に行くと、私が泊まる部屋に案内してくれました。部屋のドアには日本語で『デンマークへようこそ』と手書きの紙が貼られていて感動したのと同時に

すごく嬉しかったです。その日は教会を案内してもらいコンビニのようところでアイスを食べました。

私は4つのことが思い出に残っています。レゴランドへ行ったこと、リングゲフリー校で行われた食事会のこと、イーダの家での楽しかった食事会のこと、誰もいない農場でマチルデの馬に乗ったことです。レゴランドでは、半分強制的にジェットコースターなどの絶叫系の乗り物全てに乗りました。私にとって初めての絶叫系のアトラクションの体験でした。急降下した時はすごく怖かったのですが、乗ったあとは楽しさの方が大きかったです。イーダの家での食事会は、たくさんの友達が集まり、夜11時頃まで水遊びやトランポリンをしたり、焼きマッシュマロを作ったり、カラオケをしました。日本ではこんなに遅くまで友達と遊んだことがないので、思い出に残りました。マチルデに誘われて鎌田さんとカロリーネと私は、街から少し離れたところにある農場まで自転車で向かいました。日本の自転車とは違い、ペダルを後ろに漕ぐと急ブレーキがかかり止まるので何回も転びそうになりました。自転車を漕いでいる時の風が気持ちよく、この自転車が気に入りました。農場に着くとまず、マチルデの馬をブラッシングしてから馬に乗せてもらいました。馬に乗った時はものすごく見晴らしが良く、あたり一面が畑で農場が自然に囲まれていて落ち着く場所でした。



デンマークでの滞在は、とても有意義で一生忘れることのできない思い出となり、将来について考えさせられた派遣となりました。このような経験をさせていただき、登別の皆さんとその関係者、引率してくださった南さん、室山先生に感謝しています。本当にありがとうございました。

デンマークでの7日間

幌別中学校2年 鹿野 睦美

「ここがデンマークなんだ！！」 コペンハーゲン空港に着いて、そう思いました。現地に着いたのは午後9時で、日本ならとても暗いけれどデンマークはまだ明るかったです。空港駅から電車に乗ってコペンハーゲン中央駅に向かい、そこから徒歩でホテルに行き、ホテルに着いてからはゆっくりしました。

2日目は、道子さんとメッテさんの案内でオーデンセ市内のアンデルセン博物館を見学しました。アンデルセン博物館には、アンデルセンの一生についての資料や作品などがありました。他にも教会や、アンデルセンの銅像、メッテさんの高校を見学しました。オーデンセはアンデルセンにまつわる建物が多く、信号機もアンデルセンの形になっているところもありました。その後は電車に乗ってホストファミリーの待つリングまで行きました。ホストとの対面は、すごく緊張して話しかけられても理解できなかつたので、とても不安になりました。家に着いて大きな犬が出てきました。名前はナナで、とてもかわいかったです。家は大きいし、庭がとても広く、公園のようになっていて、うらやましかったです。ホストのミエは優しく接してくれ、分かりやすい英語で話してくれました。夕食は、パン、いも、ご飯が出ました。外国の食事が初めてだったので、少しとまどったけれど、とてもおいしかったです。

3日目は朝6時に起き、ご飯を食べ7時半に家を出ました。ホストの家はリングフリー校まで車で10分のところにあり、毎朝大変だと思いました。学校では勉強したり、遊んだりして、過ごしました。学校が終わるとお母さんの仕事場に行き、ケーキを買って食べました。日本のケーキとは違って、クッキーの間にクリームが入っているものを食べ、めずらしかったけれどおいしかったです。



4日目も学校に行き、歌と踊りを披露しました。その後、バスに乗りレゴランドに行きました。レゴで作ったものやアトラクションがたくさんあって、ディズニーランドのようで驚きました。ジェットコースターに何度も乗り、楽しかったです。その後は、ホストと一緒に食事会に参加しました。そこでリングフリー校のクラスメートと遊び、仲良くなれました。

5日目は午後から、お母さん、お父さん、ミエ、弟2人と買い物に行きました。それから、オーデンセの動物園にも行き、初めてらくだを見ました。動物園なのに公園や、船に乗って見学するものがあり、日本との違いを感じました。それから午後7時頃に海に行きました。水は冷たかったけれど、ミエと弟とさら

に仲良くなったと思います。

6日目はイーエスコウ城に行きました。城の一番上の階の人形を動かすと城が崩れるといわれている伝説があったり、昔の城内を再現していました。歴史的なものが多く、勉強になりました。家に帰って、庭でミ工と弟と水鉄砲で遊び、とても楽しかったです。夕食は庭で食べ、たくさん話をし、たくさん笑いました。



滞在最後の7日目は朝食を食べ、片付けをして家を出るときは悲しい気持ちになりました。ホームステイは5泊6日と短い間でしたが、いい体験ができてとても楽しかったです。駅に着いて、電車が来ると「もうお別れなんだ…」と思い、とても悲しかったです。もう少しデンマークにいたかったです。それから1時間半くらい電車に乗って空港に行き、昼食を食べました。空港で買い物をしてから飛行機に乗って「デンマーク、さようなら！」と心の中で言いました。

私はデンマークに行ってたくさんのことを学びました。例えば、言葉が通じなくてもジェスチャーなどで意味は通じるということや、人と人との優しさや、思いやりなどです。それから、ホストファミリーが優しく接してくれて家族はいいものだと思います。また、9人でデンマークに行って、ホストファミリーに会いたいです。

デンマークで過ごした日々

幌別中学校 2年 萩原 愛美

「その国の色を感じてきてください。」これは出発式の時に言われた言葉です。桃色、赤色、水色。この3色は私が思う日本、タイ、デンマークのイメージカラーです。日本の桃色は桜をイメージしました。日本には美しい四季があり、それらを120%楽しめる行事があります。それを象徴するためにこのやさしい色にしました。タイは私のもう1つの母国です。なぜなら私は小学校3年間、タイに住んでいたからです。タイの人はみんな陽気で明るくて、南国のため太陽は1年中元気です。それらのことからタイのイメージカラーは赤色にしました。そして、デンマークは私の新しい家です。OBの人たちに「ホームステイは海外にも家族ができる感じだよ。」と教えられていました。家でホームステイを受け入れたことは何度もあるので『だいたい言いたいことわかるな〜。』なんて思っていました。しかし、ホームステイする側になって『なるほど、これは本当に体験してみないと解からない感覚だ。』と思いました。それは言葉でうまく言い表せないものでした。

さて、私にとってそんな特別な存在になったデンマークのカラーがなぜ水色なのか。それはデンマークには冬には雪原が、夏にはカラッとした青空とキレイな海が広がっているからです。そして、私のホストのアナの目が水色だったからです。私は外国人の目が透き通って見えることを初めて知りました。テレビや本なんかで見る様な色の比ではありません。白い部分はよどみがなく青を引き立たせていて美しいです。『繊細なガラス細工』という言葉がぴったりです。

インターネットやパンフレットでは『ヨーロッパでの時間はゆっくり、ゆったり流れる。』と書いてあったけれど、私には一瞬のように感じました。あまりに早く過ぎた1週間だったので「今までの全部夢みたい。」と言う人もいました。しかし、私は手に取るように思い出せます。その時の色、香り、素材すべてわかります。いつかそれらを忘れてしまうのが怖いので、私はできるだけたくさんの写真を撮りました。数えてみると400枚もありました。それらの写真をこれからも大切に、大切にしていきたいです。10年後にまた派遣メンバーで、デンマークで再会する約束もしました。そして何よりアナと再会したいです。



ホストファミリーとの交流

西陵中学校2年 神 沙希

私の一番の思い出は、やはり、ホームステイをしたことです。私は最初、ホストファミリーと仲良くなれるかとても不安でしたが、ホストの皆さんはとても優しく、家に着くと「今日からここはあなたの家だから、遠慮しないでね」と言ってくれ、緊張が少しほぐれました。

そして、私の荷物の整理が終わると、庭に出てみんなで果物やお菓子を食べながら、お土産交換をし、おしゃべりをして過ごしました。私がプレゼントしたお箸をすぐに使ってくれ、夕食の時はしばらくお箸講座となりました。ホストの家では、平日の朝食にコーンフレーク、休日に焼いたパンを食べました。平日と休日に少し差をつけるのは、日本とは違うな、と思いました。また、ホームステイの最終日に、車で30分ほど離れた所に住んでいるおばあちゃんの家連れて行ってもらいましたが、おばあちゃんは、リンゲの家に向かっていたので行き違いになってしまい、残念ながら、会うことができませんでした。おばあちゃんの家が海に近かったので、カニ釣りをしました。途中から、カニを釣るというよりは捕獲する感じになってしまいましたが、とても楽しかったです。そして、お別れの日、ホストのカトリネは私が帰ることを悲しがってくれて、私も、5日間過ごした家族と別れるのが寂しくなりました。最後に、“帰ったら絶対にメールをするね”と約束をし、ハグをして電車に乗りました。電車が動き始めたとき、もう一生会えないかもしれないと思いました。機会があればホストファミリーに会いにデンマークに行きたいと思います。



私はこの研修で、言葉が通じなかったり、生活の違いに戸惑うなどたくさん大変なことがありましたが、それ以上にデンマークの良さや人の優しさなどを知ることができたと思っています。最後に、このような貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。

デンマークへ行って

登別中学校 2年 小和田 奈々

私はデンマークへ行ってたくさんのお話を学ぶことができました。

「ようこそ、デンマークへ」。ホストが最初に私に言った言葉です。その時の表情は本当に私を歓迎してくれていて、緊張が少しずつ溶けていきました。ホストのイーダは美人で妹もとても可愛い子でした。妹とは、はじめは何も話す



ことができず困りました。でも、日がたつにつれて公園で遊んだりトランポリンをしたことで、一緒に笑い合うことができ、今振り返ってみると、楽しい時を過ごし良い思い出ができました。イーダにデンマーク語を教えてもらったり、パソコンを使って家族の生活や性格を聞くことができ少しずつ会話ができるようになりました。滞在中、

一番後悔したことは、英語を話すことができず、ホストファミリーにはとても申し訳なかったことです。今まで勉強した英会話を何にも生かすことができず悔しいです。この思いは絶対に忘れず、英語を話せるように努力します。ホストのお母さんにはとても気をつけてもらい、デンマークについてたくさん教えてもらい、感謝しています。イーダのいとこが病気で亡くなったことを悲しみながらも私に話してくれたことが印象に残っています。私もそのいこのために天国へ祈りを捧げたいと思います。ホストのお父さんは、いろいろ工夫をこらし、おもしろいゲームで私を笑わせてくれました。

私は、素晴らしい家族にめぐり会えてとても良かったです。イーダには、日本に遊びに来てほしいし私もデンマークへまた行きたいです。大人になっても連絡を取り続けたいと思います。外国で生活したのは初めてですが、本当に良い経験ができました。言葉が通じなくても一緒に楽しんで笑い合うことができました。



でも、言葉が通じると、もっと分かり合えることが多いと思うので、これから英語を一生懸命に学ぼうと思います。

ホストファミリーと過ごして

登別明日中等教育学校 1年 赤松 和

「あと5分…」私は、電車の中で思いました。もうすぐリングゲ駅に着きます。緊張して、急に怖くなりました。英語はわからないし、初めての家庭で上手くやっていけないかもしれない、という不安があったのです。電車のスピードが落ちて、リングゲ駅が見えてくると全員のホストファミリーと、そのクラスメートが、小さな国旗を振って出迎えてくれました。私たちが降りて、みんなそれぞれの家庭へ分かれていきました。私は、1人の女の子と目が合いました。

その子は、事前に送られてきた写真の女の子でした。その子に「Nodoka?」と聞かれ、私が「Yes」と答えると、後ろにいたお父さんやお母さん、妹のマリエや1番下のアマリエが、笑顔で「Nice to meet you Nodoka!」と、挨拶をしてくれました。けれども、そのあとの会話は全く理解できず、不安な気持ちのまま、家に向かいました。

家に着いて、まず持って来たお土産を渡しました。中には扇子や、刺し子、手ぬぐいなどを入れていました。それを説明するのに、また一苦勞。「This is Japanese fan …, This… name is … Sensu」と、何とか説明しようとしてみると、理解しようとしてくれました。



私のホストファミリーは、とても仲良くしてくれて、私を心から歓迎してくれました。私が、わからないと言うと実物を持ってきて、ゆっくり説明してくれました。私も、徐々に聞き取れるようになり、いつの間にか会話がはずむようになっていました。紙風船や、折り紙をしたり、それぞれの言葉を教えあったり

りました。ゲームも教えてもらって、毎日遊びました。

ソフィーがクラスメートを紹介してくれて、マチルデやフィーエ、マークス、カロリーネやイーダとも仲良くなり、毎日楽しく過ごしていました。ソフィーたちと遊んだこと、ジェスチャーで会話したこと、オーデンセやレゴランド、イーエスコウ城を皆で見学したこと、どれもすばらしい経験でした。言葉が通じなくても、気持ちは通じ合える。これは、何よりも、身を持って感じたことです。本当に、良い経験でした。



引率者報告書

平成24年度登別市デンマーク友好都市中学生派遣交流事業に参加して

団長 登別市総務部政策推進室財政グループ
南 三明

1 はじめに

このたび、平成24年度登別市デンマーク友好都市中学生派遣交流事業の派遣交流団の一員として参加させていただき厚くお礼申し上げます。

また、派遣に際しまして小笠原登別市長、高田副市長、武田教育長から温かいお言葉をいただき心より感謝申し上げます。

さらに、昨年度派遣団団長として引率されました石垣緑陽中学校長、幌別中学校松本教諭におかれましては、昨年度の教訓等をご指導していただき厚くお礼申し上げますとともに、登別デンマーク協会や保護者の皆様など多くの方々のご支援をいただき心よりお礼申し上げます。



2 派遣に向けての事前研修

昨年度までは、市内学校長が団長として派遣団を引率しておりましたが、今年度から市職員である私が派遣交流団団長として、引率英語教諭として緑陽中学校室山教諭が派遣することとなり、室山教諭と連携し、9名の生徒たちとの繋がりを大切に持とうという心構えでこの派遣に向かいました。

今回の派遣では昨年度同様、生徒ごとに研修テーマを設定し、デンマークでのホームステイ、リングフリー校での交流を通じ、研修テーマを解明することとしました。

7月6日の結団式の後、事前研修として9回の研修を行い、紀行文の割り当てや研修テーマの設定、手紙の書き方、英語やデンマーク語の会話練習など実施し、リングフリー校で披露する歌や踊りは生徒たちが考え、短い研修期間の中、自宅での練習を含め積極的に取り組み、地獄まつりでおなじみの「鬼踊り」では、暑い日が続く中、大きな声を出し、輪になって練習しました。

また、デンマーク協会や保護者の皆様、ALTのアンディとブレットの協力のもとデンマーク料理を実際に作り、食文化の違いやテーブルマナーなどを学ぶことができたことに大変感謝します。

事前研修当初は、初対面で恥ずかしい思いが強いせいか、表情が硬い生徒が多かったですが、研修を重ねるごとにお互いにコミュニケーションが取れるようになり、仲間意識が強くなり表情が生き生きしておりました。

3 異国の地での日々

9名の派遣生徒は、ドイツのミュンヘン空港を經由しデンマークのカストラップ空港に入り、約1週間の滞在を経験しました。

デンマークに入る前には、生徒たちが聞いたことのないドイツ語のアナウンスや入国審査、手荷物検査での声かけに戸惑いながらも、既に異国の地の雰囲気を感じ、デンマークに着いてからは、生徒たちは外国慣れした雰囲気でもありました。

コペンハーゲンのホテルで1泊し、次の日の午前オーデンセ市へ電車で行き、道子・ペダスンさん、メッテ・ハンセンさんにアンデルセン博物館やカ



トリック教会、メッテさんの出身高校、オーデンセ市内を案内していただき、その後、たくさんのホストファミリーが待っているリングゲ駅へ電車で行きました。

リングゲ駅では、生徒たちが事前に送った手紙に写真を同封していたため、それぞれのホストファミリーは預かる生徒がすぐにわかり、この場から生徒

たちのホームステイ生活が始まりました。

生徒たちが各ホストファミリーのもとへ行ってからの日々では、リングゲフリー校での交流や歌や踊りの発表、レゴランドでの体験、ホストファミリーとの食事会、イーエスコウ城の見学、また、休日にはそれぞれ貴重な体験をしたものと感じます。

生徒たちに会うたびに前日の出来事などを聞きましたが、みんな目が生き生きとし、いろいろなところへ連れて行ってもらったことや、英語に少しずつ慣れコミュニケーションが取れるようになったことなど楽しそうに話しておりました。

私たち引率者も、ホストファミリーと楽しい時間を過ごすことができ、また、ファボー・ミッドフュン市長であるハンス・ヨーンスン氏並びにファボー・ミッドフュン登別友好協会会長であるリズビー・サンダー氏へ親書を手渡す際に訪れた市庁舎では歓迎を受け、和やかに談笑することができました。



最終日のリングゲ駅では、ホストファミリーとの別れがつかく涙する場面もありましたが、生徒たちを家族の一員として迎えてくれたホストファミリーに感謝の気持ちを伝え、日本へと帰国しました。

4 研修を終えて

あっという間の派遣期間が終了し、9人の生徒ごとに決めた研修テーマが実際に体験できるか不安でしたが、オーデンセ市内を案内していただいた、道子・ペダスンさん、メッテ・ハンセンさん、ホストファミリーの皆様のご協力のもと、生徒なりに研修テーマが解明できたものと考えます。

また、紀行文や感想文についても、生徒たちがデンマーク派遣を通して、いろいろな体験ができたことを感じるものとなりました。

このような経験ができるのも、ホストファミリーの皆様、現地デンマーク登別友好協会やリングゲフリー校のご協力のおかげであり、生徒たちを支えてくれた皆様に感謝の気持ちでいっぱいです。この方々の支えがなければこの派遣事業が成り立たないものと思います。

生徒たちも、お世話になった人たちへの感謝の気持ちを忘れずに、手紙やEメールを通じて今後も交流してもらえればと思います。

最後になりますが、今回の派遣を通して、生徒たちが一回りも二回りも成長できたことが一番の収穫であり、これからの人生に何らかの形で有意義になることを期待し、さらに成人になる数年後の人生観に役立てばこの事業の成果が出たと言えるのではないかと考えます。

この事業も今回で20回目となりますが、今後もこの交流事業が引き続き展開できるよう、市行政へのご理解、ご協力をお願い申し上げます。

平成24年度登別市デンマーク友好都市中学生派遣交流事業に参加して

引 率（登別市緑陽中学校）室山 知美

この度、平成24年度登別市デンマーク友好都市中学生派遣交流事業の派遣交流団の一員として参加させていただきましたことに厚くお礼申し上げます。

また、派遣に際し、様々なご指導をしていただいた小笠原登別市長、高田副市長、武田教育長には心より深く感謝申し上げます。

さらに、事前研修より派遣のためのご指導を頂きました関係者の皆様には改めて深くお礼申し上げます。

派遣団一行は、皆様のご協力とご指導のお陰を持ちまして現地の人たちと交流を深め、多くのことを学び、たくさんの収穫を得て元気に帰国することができました。

事前研修では、それぞれが設定した研修テーマに基づいて学習を深め、現地ではホストファミリーや学校の協力を得ながら調査をすることができました。本年度の派遣ともあり、終日ホストファミリーと過ごす中で、研修テーマについて多くを学ぶ機会を設けていただきました。



また、本年度はリンゲフリー校の朝会で、登別市について英語で紹介する時間を設けていただき、まずは生徒自身の力で文書を作成したことも、日常会話の練習に加えた有意義な語学研修の一つとなりました。さらに発表の練習も繰り返すことで、コミュニケーションの基礎である、自分の考えを聞き手に伝えるということについても意識して取り組むことができました。派遣交流団はこのような様々な事前研修を重ねる中で交流を深め、団結していくことができました。

今回の派遣に伴いまして、派遣された生徒全員にはデンマークで研修し、学習したことが今後の学校生活やこれからの人生に大きな影響を与えるものと感じています。

最後になりましたが、一緒に研修を積んだ派遣交流団の仲間や、現地で交流を深めた友人、お世話になったホストファミリーとのつながりを財産にして、登別市の国際交流の更なる礎となることを願っております。

友好都市協定書

デンマーク王国リングゲ市及びウイスリングゲ市と日本国北海道登別市は、1997年に「友好の絆」を交わして以来、リングゲ・ウイスリングゲ・登別友好協会と登別デンマーク協会との両協会の活動を積極的に支援し、双方の市民の友好と相互理解を深め、友好交流を積み重ねてまいりました。

これらの交流は、両市民の文化・教育の面においても拡がりを持たせるものであります。

この度、リングゲ市、ウイスリングゲ市が近隣のまちと合併し、ファボー・ミッドフュン市として誕生したことを記念する年になお一層両市の絆を強め、ファボー・ミッドフュン登別友好協会（旧リングゲ・ウイスリングゲ・登別友好協会）と登別デンマーク協会の積極的な支援を継続するとともに、両市の相互理解と信頼のもとに市民交流、文化交流の推進を目指し、ここに友好都市協定を締結します。

平成19年(2007年)6月10日

The Establishment of Friendship Agreement

Since the signing on the Bond of Friendship between the municipalities of Ringe/Ryslinge and Noboribetsu City in 1997, our three cities have been positively supporting the activities of both the Ringe/Ryslinge-Noboribetsu Friendship Association and the Noboribetsu Denmark Association to deepen mutual understanding and build up friendship among our peoples, and the fruit of the activities has extended to cultural and educational fields.

According to the formation of the new Municipality of Faaborg-Midtfyn, both our cities will strengthen the ties of friendship even more, and continuously maintain the activities of both the Faaborg-Midtfyn-Noboribetsu Friendship Association and the Noboribetsu Denmark Association. Our goal is promote friendship and cultural exchanges based upon mutual appreciation and reliance.

In accordance with the above mentioned guiding principles, The Municipality of Faaborg-Midtfyn and The City of Noboribetsu will subsequently outline a more elaborate description of the fields of co-operation and how the goals of the agreement is best achieved.

We hereby give our signatures on the Establishment of Friendship Association.

June 10th, 2007



ファボー・ミッドフュン市長
Mayor of Faaborg-Midtfyn
ボー・アナスン
Bo Andersen



登別市長
Mayor of Noboribetsu
上野 晃
Akira Ueno